

# 第20回宝塚市子ども議会

## 質問・要望事項への対応状況について



令和2年（2020年）3月

宝塚市

## 目次

末成小学校	6年	軸屋 心美	・・・1
安倉小学校	6年	畑本 真衣	・・・2
美座小学校	6年	橋村 朔	・・・3
光明小学校	6年	沼 毅	・・・4
中山五月台小学校	6年	永島 花	・・・5
丸橋小学校	6年	奥田 海翔	・・・7
高司小学校	6年	大嶋 美桜	・・・8
山手台小学校	6年	福井 真太郎	・・・10
関西学院初等部	6年	豊島 茉央	・・・11
安倉中学校	3年	森 尚規	・・・12
御殿山中学校	3年	原山 彩乃	・・・14
光力丘中学校	3年	橋詰 菜月	・・・16
山手台中学校	3年	山寺 陽	・・・17
雲雀丘学園中学校	3年	篠原 あおい	・・・18
養護学校高等部	3年	村松 俊哉	・・・19
宝塚東高等学校	2年	園田 彩夏	・・・20
小林聖心女子学院高等学校	2年	鶴川 遥奈	・・・21

担当部：都市安全部（防犯交通安全課、道路管理課）

議員名	軸屋 心美	テーマ	横断歩道に信号をつけミラーを設置してほしい
-----	-------	-----	-----------------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

私は、「横断歩道に信号をつけ、道路の曲がり角にミラーを設置すること」を提案したいと思います。私は、人間も動物も安全に毎日を送るようになってほしいです。事故でケガをしたり、命をおとすのはいやです。今から5年ほど前に、お母さんとコンビニに買い物に行こうとした時でした。犬の散歩をしている人がいました。かい主の人は先に横断歩道をわたり、その後ろを犬があるいていました。なんと、目の前で犬がひかれて死んでしまったのです。とてもショックを受けました。かい主の人も大きな声で泣き叫んでいました。その横断歩道には信号がなかったのでこのような事がおきてしまいました。また、同じ場所でも中学1年生が車にひかれてうでを骨折したこともありました。私の家では、この横断歩道はわたってはならないルールになりました。二度とこのような事故がおきないようにするためにも、信号をつけてほしいです。また自転車同士がぶつかりそうになることもあるので、曲がり角にミラーを設置してほしいです。私は、宝塚市がより安全でより楽しく過ごせる街になってほしいと思っています。そのためにも市内の信号のない横断歩道に信号をつけ、あぶない曲がり角にミラーを設置してほしいです。運転手さんにも安全を心がけてほしいです。

**答弁：**

信号機の新設については、兵庫県公安委員会により、交通量や見通しなどの道路状況によって、緊急性の高い箇所から設置されますが、県全体で信号機設置の要望が非常に多く、整備が追いついていない状況にあります。

今回のご要望を受けまして、現地調査を行い、宝塚警察署に相談したところ、この交差点は、比較的歩行者が少なく、歩行者の横断距離も短いことから、信号機の設置は難しいとのことでした。このため、車の運転手に注意喚起(かんき)を促す看板を設置できるよう道路の管理者である県の宝塚土木事務所と協議(きょうぎ)し、了解を得ましたので、今月中に設置します。

次にカーブミラーの設置についてですが、ご要望をいただいた末成町(すえなりちょう)12番区南西の交差点は、見通しを良くするため、道路の四隅(よすみ)の角を切った隅切(すみきり)が設置されていますが、周辺には住宅などがあることから、交差点のすぐ近くでない、左右の道路の状況を確認しにくくなっています。

カーブミラーは、自動車を確認するために設置しており、自治会(じちかい)など地域の方から要望があり、交差点周辺にお住まいの方の了解がいただければ設置するよう検討します。

但しカーブミラーは、交差点における道路状況の全てが映っているとは限らず、道路状況を確認する補助的なものです。特に自転車で交差点を通行する際には、カーブミラーでの左右の安全確認だけでは十分ではないため、必ず自分の目で確認し、すぐに停止できるような速度で注意して走行するよう引き続き皆さんに呼びかけていきます。

**その後の対応状況：**

(防犯交通安全課) 2019年8月21日 横断歩道の両端(りょうはし)付近に「横断者に注意」の看板を設置しました。

(道路管理課) 現在のところ、子ども議会実施後から現在に至るまで当該箇所(とうがいかしよ)について、自治会(じちかい)など地域の方からカーブミラーの設置要望はでておりません。

担当部課：都市安全部（防犯交通安全課）

議員名	畑本 真衣	テーマ	信号の設置について
-----	-------	-----	-----------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

私は、信号の設置について提案します。私の住んでいる地区にチボリゴルフセンターという建物があります。その前にある横断歩道が、信号機がないという件です。そこは、交通量が多く、また、小学生もよく通るため、すごくあぶないです。この前も、同じ学年の子が、自転車に乗っていたら、車にあたるという事故がありました。また、その近じょに住んでいる子も「あそこは、車が来ているかよく見えなくてあぶない。」と言っていました。私も友達をさそいに行く時に通るのですが、通るのがときどき怖いです。そんな状たいを放置していたら、いつまた事故がおこるか分かりません。もしかしたら次、事故にあうのは、もっと小さい子かもしれません。そんな小さな命がなくなる前に、そして命をすくうためにもそこに、早く信号機をつけていただきたいです。このように、お願いばかりではなく、私たちも交通ルールを守り、自分の命は自分で守るように、日ごろから気をつけていきたいです。そして、私は登校班の班長として、安全に登下校できるように声かけをしていきたいと思ひます。ぜひ、信号の設置をよろしくお願ひします。

**答弁：**

今回のご要望について、市や学校、宝塚警察などで構成する通学路交通安全推進会議でも危険な箇所として認識し、信号機設置に向け、本市では交差点改良工事を行いました。その後、宝塚警察署に信号機設置について相談しましたが、昼間の横断者が少なく、全体として歩行者が少ない交差点であるとの判断から信号機設置に至っていません。このため、本市では引き続き、宝塚警察署に信号機設置の要望と車の速度違反の取り締まりを依頼しているところです。

また、歩行者の安全を確保するため、今月中に、車の出入口の隣にある横断歩道を、車の出入口から離れたより安全な場所に移設する予定です。

現状では信号機がありませんが、この度、子どもたちが安全に横断できるよう新たに横断小旗(おうだんこばた)を配置しましたので、左右から来る車の通行にも十分注意して横断の際にご利用ください。

信号機がない歩道では、歩行者が優先です。これが守られるよう宝塚警察署に対して定期的なパトロールを要請します。また、本市では車の運転手の注意喚起(かんき)を促(うなが)すため、「スピード落とせ」や「横断者に注意」の看板を設置し、注意するよう引き続き呼びかけていきます。

**その後の対応状況：**

2019年8月2日 「通学路注意」看板と横断用の小旗(こばた)を設置しました。

車の出入口付近の横断歩道については歩道を延長した箇所(かしょ)に2020年3月に移設(いせつ)予定です。

担当部課：都市安全部（公園河川課）

議員名	橋村 朔	テーマ	バスケットボールができる公園を増やすことについて
-----	------	-----	--------------------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

ぼくが提案したいことは、バスケットボールなどができる公園を増やすことについてです。提案するきっかけは、「バスケットボールをする時にバスケットゴールがある公園が少ない。子ども達だけで遊べない。」と友達が言っていたからです。また、最近日本人が世界で活やくして、盛り上がっています。その刺激で、バスケットボールをやりたい人が増えていると思います。でもまだバスケットボールができる環境が整っていません。友達が知っているバスケットボールが出来る所は、二ヶ所で、ぼくは、中国自動車道の下にある公園だけです。またその公園も校区外なので利用することが難しいです。バスケットボールが出来る公園が少ない理由は二つあると思います。一つ目は、ボールが道路に出たり家に入ったりするため危なく、二つ目は、バスケットボールコートを少し小さな公園に設置してしまうと他の人が遊ぶスペースがとてせまくなってしまふからだと思います。その問題を解決するためには、スペースが広い、さくら橋公園と末広(すえひろ)中央公園、建設中の宝塚市文化芸術センターに設置することです。この三つの場所には、駐車場もあって校区外でも行きやすいと思います。また、三つの場所には、広いので他に遊ぶスペースを、確保しつつバスケットゴールを設置できると思います。そこにフェンスを付けたら、外にボールが飛びだすことなく安全に遊べるはずです。そうしたら問題点はすべて解決すると思います。これで提案を終わります。

**答弁：**

バスケットボールができる公園を増やすことについてですが、まず、本市で管理している公園の中でバスケットゴールが設置されている公園は、橋村議員がご存知の中国自動車道下のものを含めて7公園あります。

橋村議員のお住まいから近い公園では、中国自動車道下の米谷高架下(またにこうかした)子ども遊園か上(かみ)の池公園にバスケットゴールが設置してあります。

橋村議員のご指摘にもあるとおり、公園でバスケットボールをするためには、いくつかの注意点ががあります。

まず、ボールが公園から出てしまったり他人の家に入ってしまう恐れや、他の公園利用者に迷惑を掛けたりボールが当たる危険が考えられます。

他にも、公園の周辺に住んでいる方の中には、ドリブルの音やボールがゴールに当たる音をうるさいと感じる人もいます。

これらのことから、公園にバスケットゴールを設置するためには、公園の周辺の方や公園利用者と十分に調整する必要があります。

また、橋村議員からご提案のあった3つの公園のうち、建設中の文化芸術センターについては、観光客を含めた多くの方が訪れることや、緑豊かな庭園としての建設が進められており樹木がたくさんあることから、バスケットゴールを設置するスペースの確保が難しい状況です。

その他、橋村議員からご提案のあった公園や、それ以外の公園も含めた中で、今後バスケットゴールの設置が実現できるように検討していきます。

もし、バスケットゴールが設置されることになったら、是非とも公園に遊びに来てもらい、存分にバスケットを楽しんで頂きたいと思ひます。

**その後の対応状況：**

答弁のとおり、議員からご提案のあった公園や、それ以外の公園も含めた中で、2020年度の設置に向けて、取り組んでいます。

担当部課：都市安全部（防犯交通安全課）

議員名	沼 毅	テーマ	歩行者用信号機について
質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応			
<b>質問（提案）：</b> ぼくの学校の近くにある、「すき家の牛丼」の前の交差点についてですが、その交差点には、車用の信号はありますが、歩行者用の信号がない所があります。ここに、歩行者用の信号を置いてもらいたいです。なぜならば、ふつうなら、車用の信号を見て、赤なら止まる。青なら進む。ですが、ぼくが見たのは、3人ほどのお年寄りが、車用の信号が赤でも、堂々（どうどう）とわたる姿です。これは、事故にもつながりそうなので、「これは、提案せねば」と思ったので、提案しました。ぼくがこの目で見たのは信号が赤でも4割くらいが堂々とわたっているのです。このままでは、子どもがまねするかもしれないし、見てるだけでもこわいので、多少お金を使いますが、その交差点に、歩行者用の信号機を置くか、「赤信号はわたらない」や、「信号を見て」などという看板を置くなどして対処してもらいたいです。よろしく願いいたします。			
<b>答弁：</b> 沼議員が言われるとおり、歩行者は信号が赤のときは横断してはいけません。子どもに見本を示すべき大人が信号無視をしていることはとても残念です。今回のご指摘を受け、「信号を守って横断しましょう」という看板の設置について道路の管理者である県宝塚土木事務所の了解を得ましたので、今月中に設置します。 歩行者用信号機の設置については、現地調査を行い、宝塚警察署に歩行者用信号機の設置を要望しましたが、県内では設置の要望が多く、なかなか実現できていない状況であることから、車両用信号機があるところでは、その信号を守ってくださいとのことでした。本市では、四季の交通安全運動の期間を重点的に、年間を通して街頭での交通安全啓発（けいはつ）を行っています。今後も歩行者や自転車に対して信号を守るよう街頭啓発に努めてまいります。			
<b>その後の対応状況：</b> 2019年8月21日 「信号を守って横断しましょう」の看板を2枚設置しました。			

担当部課：教育委員会（学事課）

議員名	永島 栞	テーマ	私たちの大切な学校
-----	------	-----	-----------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

私は、中山五月台小学校に通っています。その中山五月台小学校は、人数が少ないです。でも、人数が多い学校では出来ないこともたくさんあります。例えば、修学旅行で広島焼きを食べる時、人数が多い学校は、持ち帰りで食べたそうです。でも、中山五月台小学校の六年生は、全員お店ですわって食べました。そして、中山五月台小学校には里山もあります。自然ゆたかで、池にはメダカ、カエルがいて、畑と田んぼもあり、秋にはトンボがとんでいます。ブランコもあって、遊びに行くこともあれば、畑でできた物を授業で収穫して持って帰ったり、家庭科の授業でその収穫(しゅうかく)したのを使って料理することもあります。そんなステキな学校が、2021年にこわされる予定になっています。でも、私は中山五月台小学校をこわさないでほしいです。周囲の大人の方は、少人数でかわいそうという理由で、この中山五月台小学校を愛し、反対している人の意見を聞かず、こわそうとしています。私たちの意見を聞いて、いいところがたくさんあるということを知ってほしいです。私が特に伝えたいことは、人数が少ないからこそいいことがあるということです。その一つに、クラスがえがないので6年間ずっといっしょで仲がいいことです。友達の良さがよく分かるから、弱点もふくめて付き合うことができます。それから、自分の仕事はせき任を持ってします。人数が少ない分、全校生がしっかりそうじをするので、校舎はいつもきれいです。私はそんな学校がとても大切にほこりに思います。

**答弁：**

私たちの大切な学校につきまして、皆さんがお住まいの中山台地区は、1970年代に開発された山手のニュータウンで、かつては、多くの子どもたちで賑わっていました。1980年代から続く少子化の影響を受け、1,000人を超す子どもたちがいた中山桜台小学校は、現在では半数以下の434人まで減少し、中山五月台小学校では、ピーク時の10分の1に当たる111人にまで減少しており、これからも引き続き児童数が減少する見込みです。

このように学校の子どもの数が少なくなっていくと、友達のことをより深く知ることが出来る反面、1年生から6年生までずっと同じ友達と過ごすことになり、いろいろな友達と出会う機会がなくなっていくと思います。また、勉強や運動などでお互いに高め合うことも少なくなると考えています。

こうした状況もあり、地域の方々も一緒になって将来に向けてどうすればより良い状況になるのか真剣に考え、議論(ぎろん)を重ねてきた結果、中山桜台小学校と中山五月台小学校を統合するという意見がまとまりました。

教育委員会では、その意見を踏(ふ)まえて、中山桜台小学校と中山五月台小学校は、2021年4月を目標に統合し、統合後には中山桜台小学校の校舎を活用して2校を1校とした新しい学校を開校する計画を作り、現在は統合に向けて準備を進めているところです。

これまでの学校生活も、皆さんにとってはたいへん楽しく有意義であったと思いますが、統合された新しい学校になると、人数が増えて今までよりも多くの友達と出会うことになり、楽しい体験がたくさんできると思います。皆さんがワクワクして、楽しみに思えるような学校になるように全力で進めていきますので、皆さんのこんな学校をつくってほしいという意見も取り入れていくように努めていきたいと思えます。

### その後の対応状況：

統合に向けて、保護者や地域の方々、先生と一緒に具体的な話し合いをしています。その話し合いでこの取組のテーマを「わくわく！ニコニコ！みんなの学校づくり大作戦！」を合い言葉に、皆さんにも統合を楽しんでもらえるように進めています。

例えば、皆さんに新しい学校づくりに参加してもらうために、学校の名前を皆さんや地域の方々から募集しました。統合の前に両校の皆さんが仲良くなれるように学年ごとの交流学習も行っています。

また、皆さんからどんな学校にしたいのか意見を聞くためのアンケートも実施しましたが、その中では、学校が統合することへ不安に思うことなどもお聞きしました。アンケートの結果を受け止めて、皆さんの不安な思いを解消しながら進めます。

引き続き、皆さんが胸をはずませ、楽しみに思えるような学校になるようにみんなで力を合わせて進めていきたいと思えます。



担当部課：教育委員会（学校教育課）

議員名	奥田 海翔	テーマ	登下校時の地しんについて
-----	-------	-----	--------------

質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

地しんは、とてもこわいです。ぼくはそのひ害を少しでも減らせるような提案をします。それは、登下校時の身の守り方を避難訓練に取り入れることです。なぜかという、昨年のおおさか北部地しんを体験したからです。ぼくたちは登校中でした。電柱やトラックがゆれているのを見て、とてもこわかったです。電柱が倒れるかもしれないと思いました。ぼくは登校班の班長なので、「落ち着いて、頭を守って」と言いました。泣いている子やおびえている子もいて、みんなで手をつないでしゃがみました。その時、頭を守っていたのは、ぼくともう一人だけで、ぼくの言ったことは、あまり意味がありませんでした。今までの避難訓練で頭を一番に守るべきだと学びました。物が頭に落ちてきたら、命を失うこともあります。学校や家では、机などで頭を守れます。ぼくたちを守ってくれている先生や家族もいます。でも登下校時は子どもたちだけで、どうすればいいのか？その時、地しんのニュースでランドセルで頭を守る方法を知りました。今の避難訓練は学校にいる時の訓練です。そこに登下校時、ランドセルで頭を守る訓練を取り入れてほしいのです。地しんは、いつ起こるかわかりません。昨年の地しんでは、こわくて何もできない子もいました。いざという時、子どもだけの時でも、命を守れるように訓練が必要だと思いました。地しんで命を失う人や悲しむ人が一人でも減らせたらと思います。

**答弁：**

登下校時の地震につきましては、地震はいつ、どこで、どのような状況で起こるかは分かりません。昨年起こったおおさか北部地震の際に、登校班の班長として頭を守ろうとする声かけをされた議員の行動は大変素晴らしいことです。

学校で行う避難（ひなん）訓練では様々な状況に対応できるように、あらゆる場面を想定して実施する必要があります。市内の学校では、在校中の地震を想定した避難訓練や登下校時に地震が起こったときにどのように行動するべきかについて指導はしていますが、議員のご提案のように、登下校時の避難訓練を行っている学校はありません。

登下校時の避難訓練では、通学路上にある危険な箇所を把握し、確認する必要があります。また、議員のご提案のように、頭部をランドセルやかばんなどで保護する方法を訓練に取り入れることも必要です。さらに、頭部を保護するだけでなく、首を守ることもとても大事なことです。どのような姿勢で身を守ればよいのか、なぜそのような姿勢をとるのかを合わせて知ってもらうことが重要です。

今後は、地震の際に大事な頭部を守る方法として、机で守る方法以外に、ランドセルやかばんで守る方法も周知していきます。また、議員からの貴重なご提案である登下校時の避難訓練については、他の自治体での取組事例を参考にして、本市でも各学校で実施できるように進めていきます。

**その後の対応状況：**

地震の際に落下物や飛来物（ひらいぶつ）から頭や首を守ることは、防災学習や避難（ひなん）訓練を通して指導しています。ランドセルや座布団、上着などを使用して頭や首を守る訓練を行い、自分の命は自ら守るという意識を持たせるように取組を進めています。また、登下校時の地震を想定した避難訓練については、他の自治体での取組事例を参考にして、研究を進めています。

担当部課：産業文化部（観光企画課）、教育委員会（学校教育課、教育研究課）

議員名	大嶋 美桜	テーマ	外国の人にも宝塚市のいいところを知ってもらうために
-----	-------	-----	---------------------------

質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

国内や外国からたくさん来る観光客の方に宝塚市のいいところを知ってもらうために、私がしていきたいことを提案します。提案する理由について話します。私は、5年前、外国から宝塚市に引こしてきました。そのとき、宝塚市はきれいで過ごしやすいい町だと思ったからです。町がきれいな理由は、ボランティアの人が、ごみを捨てたり、公園のそうじをしたりしていたからです。また、西谷などは、自然がたくさんあり、虫や鳥がたくさんいることもきれいな町につながります。学校では、学習環境が整っており、給食もおいしいです。給食では、ふとねぎや白菜など、西谷の食材が出ることもあります。宝塚は、いいところがたくさんありますが、変えたいと思うことがあります。それは、道案内のパンフレット、町の中での表示など、外国の人でも生活しやすいように、外国語で表示を増やすことです。表示を増やすことで、宝塚市のいいところを知ってもらえたり、宝塚市でとれるおいしい食材を食べてもらったりすることができるからです。私達の身の回りの場所に外国語の表示がたくさんあれば、もっと、宝塚市のことを知ってもらえると思います。もう一つ提案したいと思うことがあります。それは、外国語の授業で、外国の先生に教えてもらう時間を増やし外国語にたくさんふれる時間を作ることです。自学で、外国語を勉強することも大切にしたいです。自分から進んで行動することで、よりよい宝塚市をつくっていききたいと思っています。

**答弁：**

まず、国内や外国から来る観光客の方に宝塚市のいいところを知ってもらうため、また、外国人の方も生活しやすいようにするために、道案内のパンフレットや町の中での表示などに外国語表示を増やすことについてですが、現在、本市の観光パンフレットについては、日本語と英語の2カ国語を併（あわ）せて記載したもののや、英語・韓国語・中国語など4つの言語に対応したものを作成して、PRに努めています。

また、世界中に本市の魅力を広く発信していくために、パンフレットだけでなく、宝塚の観光情報のホームページは、日本語・英語・韓国語・中国語に対応しています。

今後、日本では、来年に東京オリンピック・パラリンピックが開催され、その後も外国からの観光客が増え続けることが予想されています。その方々が来日した際に、本市にも足を運んでいただけるよう、引き続き、パンフレットやインターネットにおいて情報発信を行い、有名な宝塚歌劇や手塚治虫記念館だけでなく、温泉や寺社仏閣（じしゃぶっかく）、豊かな自然などについても積極的にPRしていきます。

また、まちなかの案内表示についても、多言語による表示を増やしていくことで、外国人の方が暮らしやすく、来ていただいた時にも楽しんでいただけるような取組を進めていきます。

「外国の人にも宝塚市のいいところを知ってもらうために」につきましても、来年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、多くの外国人の方々が来日されます。それに伴って本市にも多くの観光客が来られることが予想されます。外国人の方々と積極的に触れ合い宝塚のいいところをたくさん教えてあげてほしいと思います。

外国語の授業で、外国の先生に教えてもらう時間を増やし外国語にたくさんふれる時間を作ることにつきましても、現在本市では英語を母国語とするALTという指導補助員が11名在籍しており、市内の幼稚園、小学校、中学校で活動しています。活動は中学校が中心となっていますが、小学校では年間11回ALTと一緒に授業を行っており、本場の英語に親しむ良い機会となっています。

それに加えて、現在小学校では、より専門性の高い授業を行うために、中学校の英語の免許を持った先生が英語の授業を担当している学校が9校あります。来年度もさらに英語担当の先生を増やす予定にしていますので、より多く英語にふれる授業が行われることとなります。

また、近隣（きんりん）の大学の留学生と一緒に英語を学ぶ機会も予定しています。

教育委員会としては、今後も小学校の外国語教育が子どもたちにとって楽しく分かりやすいものになるよう、学校と連携し取り組んでまいります。

**その後の対応状況：**

2019年度内に、観光パンフレットをリニューアルし、日本語だけでなく英語、中国語（繁体字（はんたいじ）・簡体字（かんたいじ））、韓国語の冊子も併（あわ）せて内容の充実を図る予定であるほか、宝塚駅周辺における主要な観光案内板も多言語に対応したものにリニューアルする予定です。

産業文化部（観光企画課）

2020年1月に、関西学院（かんせいがくいん）大学と小学校の授業に協力していただける外国からの留学生を紹介してもらうように協議をするなど、留学生と交流できる機会を設けるよう取組を進めています。

教育委員会（学校教育課、教育研究課）

担当部課：教育委員会（学事課）

議員名	福井 真太郎	テーマ	中山五月台小学校廃校後のグラウンド使用について
-----	--------	-----	-------------------------

質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

ぼくたちは、野球チームとして毎週土曜日と日曜日に中山五月台小学校のグラウンドで、練習をしています。中山五月台小学校が廃校になると聞いて、練習ができなくなるのではないかと、とても不安に思っています。これからも中山五月台小学校で野球の練習ができたらいと思ったから、この提案をしました。今の状況は、団員として60名ほど毎週、試合に勝つために一生懸命、野球の練習に取り組んでいます。ぼくは、来年卒団となりますが6年間中山五月台小学校グラウンドを使わせてもらって、今までみんなといっしょにあじわえた、楽しさや苦しさがとても心に残りました。中山五月台小学校のグラウンドが使えなくなると、ぼくたちの練習するグラウンドがなくなって練習ができなくなってしまいます。そこでぼくたちの思いは、これから野球をはじめようと思っている子ども達のためにも今まで通り中山五月台小学校が廃校になっても野球の練習でグラウンドを使わせてもらいたいです。

**答弁：**

中山五月台小学校廃校後のグラウンド使用につきましては、中山桜台小学校と中山五月台小学校は2021年4月を目標に統合し、統合後には中山桜台小学校の校舎を活用して、2校を1校とした新しい学校を開校します。

中山五月台小学校のグラウンドは、土曜日、日曜日に野球やサッカーの練習などでたくさん利用していただいております。その中で皆さんが一生懸命練習することを通じてスポーツを楽しんでおられることを嬉しく思います。

統合後の中山五月台小学校の跡地(あとち)利用の具体的なことは、これから決まっていくこととなります。

また、両校が統合することについて、現在具体的な話し合いが進められており、両校を利用しているスポーツ団体なども今後の利用について話し合いが行われる予定です。その中で、今後中山五月台小学校が利用できなくなった場合には、現在両校を利用しているスポーツ団体の利用実態を踏(ふ)まえて、中山桜台小学校の利用についてどうするのか話し合いをしていくことになると考えています。

福井議員の野球チームの後輩たちや、これから野球をはじめようと思う子どもたちが、野球の練習を続けられるよう、教育委員会としても様々な方法を検討していきたいと考えています。

**その後の対応状況：**

統合後の中山五月台小学校の跡地(あとち)利用の具体的なことはまだ決まっておらず、引き続き検討しています。これまでどおり地域の皆さんがスポーツを楽しむことができる場所として利用できるように、様々な方法を検討していきたいと考えています。

担当部課：環境部（生活環境課）

議員名	豊島 茉央	テーマ	ゴミのポイ捨てについて
-----	-------	-----	-------------

質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

私のテーマは、ゴミのポイ捨てについてです。なぜこのテーマにしたかという、登下校の時とかに、たまにゴミが落ちていて、気持ち良くなかったからです。みなさんも、そんな経験ありませんか？ゴミが落ちてるとどんな綺麗な町でも、きたなく感じてしまうと思います。阪急バスの車内アナウンスでも、この事については言っているの、聞いたことがある人もいるかもしれません。なので私は、宝塚市にゴミ箱をちょこちょこ置いたら良いと思います。場所は、交番の前とか、いつでも開いている店の前とかが良いと思います。なぜなら、家のゴミを捨てたりして、ダメな事をする人が出るかもしれないからです。そうすると、けいさつの人とか店の人が見ているから、そんなことをする人も、なくなると思います。なぜ、ゴミ箱をちょこちょこ置いたら良いと思ったかと言うと、ゴミをずっと持っていて、それがイヤになって、ついついポイ捨てしてしまう人が多いと思うからです。ゴミ箱をちょこちょこ置くと、ずっと持ってなくても良いので減ると思います。

**答弁：**

交番や開いているお店の前にごみ箱を設置することについてですが、本市も豊島議員と同じように考え、1994年に空き缶等のポイ捨て防止を目的に条例を制定し、市内のバス停や公共施設など人目につくところにごみ箱を設置していました。しかし、街のごみ箱に家のごみを捨てに来るといったことや、ごみ箱からごみがあふれるなど、ごみ箱がごみを呼び込むといったことがあり、ごみ箱を置いている地域の方から撤去（てっきょ）の要請（ようせい）があり、ごみ箱を撤去していくようになりました。現在では、全てのごみ箱を撤去しています。また、コンビニでも同じような理由からお店の前から中にごみ箱を置くように変わってきています。

このように、現在では街中（まちなか）に設置されたごみ箱にごみを捨てるのではなく、自分で出したごみを処理するのは自分の責任であり、家に持ち帰り、缶やペットボトル、プラスチックなど適切に分別し、リサイクルするとともに、ごみを減らすことが、地球環境を守るために求められています。

本市は、これからもごみを持ち帰り、適正に処理してもらえるよう重ねて啓発（けいはつ）していき、宝塚市がきれいで美しい街であり続けるよう努力していきたいと考えています。

**その後の対応状況：**

「ごみは自宅へ持ち帰って処理しましょう」というポスターを作って宝塚市内を走るバスの中に貼ったり、ポスターと同じ内容でバスの車内放送をして啓発（けいはつ）しました。

担当部課：都市安全部（道路管理課）、環境部（業務課）

議員名	森 尚規	テーマ	ゴミ捨て場のカラスによる被害と防止について
-----	------	-----	-----------------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

僕がこのテーマにしたきっかけは朝、学校へ通っているときにカラスに荒らされ、道ばたに散らばっている生ごみを見たことがきっかけです。このカラスによる被害はほくが小さい頃から続いていて特に燃えるごみを回収する日に荒らされてきました。それを解消するために宝塚市では唐がらし成分の入ったネットを支給しています。ですが、この方法ではネットのすきまを狙われたりと効果は薄いです。では、どうすれば、被害が減るのかその方法を今から言っていきたいと思います。その方法の1つ目は、さきほど言ったネットではなくボックス型にすることです。この方法のメリットは、カラスに荒らされる心配がほぼなくなることです。それに対してデメリットは費用がかかることと場所をとってしまうことです。もし、このボックス型を設置するのであればアルミ製かステンレス製などの金属製のもののほうがより効果が期待できます。カラスに荒らされないための方法の2つ目は、赤色のごみや生ごみを外から見えないようにすることです。カラスは視覚に優れていてカラスの好物の色の赤やえさとなる生ごみなどを他のごみと見分けることができます。なので、赤色のごみや生ごみを袋の中のほうに入れておくだけでも効果があります。これらのカラスの被害を減らす方法を検討してもらえようお願いします。

**答弁：**

ゴミ捨て場のカラスによる被害と防止についてですが、カラスは非常に目が良く、頭の良い動物で、市民が出すごみをあさって道端(みちばた)に散らかしてしまうので、本市でもいろいろと対策をしているところです。例えば、市民に対して夜間に犬猫などにごみが荒らされることを防ぐために、ごみは前夜に出さずに、決められた曜日の朝8時までに出すようお願いしています。

また、本市でもカラスや犬猫などに荒らされやすい燃やすごみを優先して午前中に収集し、散乱防止に努めています。

さらに、道路上のごみステーションをお使いの方には、防鳥ネットの貸し出しを行っています。

しかし、この防鳥ネットは、正しく使わなければ、ごみの散乱防止ができません。ごみを出す全ての方が、ごみの色に関係なく、ごみ袋全体を包み込むように使っただけであれば、ボックス型と同様にカラスなどに荒らされないことをホームページで写真などを使って、わかりやすくお知らせしています。どうしても、ごみが多く防鳥ネットで包めない場合などは、ネットを多くお貸ししたり、ごみステーションを分けるなどして、効果的に使っただけのようにしています。

また、沢山のごみを出されている方は、ごみを減らす努力をお願いしたいと思います。本市では、家庭から出るごみの減量化・資源化の方法として、ごみになるものを減らすリデュース、ごみにせず繰り返し使うリユース、ごみを資源として再生利用するリサイクルの3つの頭文字をとった3R(スリーアール)の推進(すいしん)に取り組んでいます。皆様のご家庭でも出来ることから取り組んでいただき、ごみを減らし防鳥ネットからはみ出ないように協力して欲しいと思います。

次に、ボックス型のごみステーションにつきましては、取り扱う方の個人差に比較的影響されずにカラスなどの散乱防止対策として効果があると考えていますので、ごみステーションをお使いの方の管理地内であれば、設置していただいています。

一方、ボックス型のごみステーションを道路上に設置することについては、道路通行上の安全確保という点で課題がありますが、今後は安全面だけでなく街の美化(びか)という観点も踏(ふ)まえて研究してまいります。

また、最近では、ごみネットについても袋状のものなど様々なタイプの商品が開発されていますので、市民の皆さんが使い易く、散乱防止に効果のあるネットについても研究してまいります。

**その後の対応状況：**

ボックス型のごみステーションを道路上に設置することについては、道路通行上の安全確保とともに街の美化(びか)という観点を踏(ふ)まえて引き続き研究してまいります。

都市安全部（道路管理課）

袋状のごみネットなど市民相談時にニーズに合った商品情報を窓口を通じて案内しています。

また、ごみネットの正しい使い方の広報にも継続して努めているところです。

環境部（業務課）

担当部課：環境部（管理課）

議員名	原山 彩乃	テーマ	プラスチックのゴミ問題について
-----	-------	-----	-----------------

質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

私が提案するのは、プラスチックゴミの問題についてです。現在、世界では年間800万トンのプラスチックゴミが海に流れ出ています。それらは、環境破壊や生物の命を奪うことにつながってしまいます。それを無くす為にプラスチックゴミを減らす方法を考えなければならないと思います。私がこの問題に関心をもったきっかけは、ニュースで大手飲食店がプラスチックストローを廃止するという報道がされたことでした。ゴミの廃棄が環境破壊につながることは知っていましたが、私達の身近な企業まで対策に乗り出していることには驚きました。そこで、私達の住む宝塚でも、プラスチックゴミを減らす対策をしたいなと思いました。具体的には、市内の小中学校で生徒1人1人にいらなくなったプラスチック製品を持ってきてもらったり、プラスチックを回収するボックスを地域ごとに設置するなどしてプラスチックを集め、再利用していくという方法にすれば良いと思います。プラスチックゴミについては年々関心が高まっていますが、まだ小中学生の間では認識が甘いと思うので、この取り組みをきっかけにして親子間で環境問題を考えることが出来るのではないかと考えました。環境についての問題は決して他人事ではありません。その認識をしっかり持つておくこと、これがこれからの時代に必要なことではないでしょうか。

**答弁：**

プラスチックごみ問題は、不法投棄(ふほうとうき)されたレジ袋やプラスチック容器などが、河川を伝わって海に流れ海洋を漂(ただよ)う間に、太陽光や紫外線(しがいせん)などにさらされることにより粉々になったマイクロプラスチックが、海洋生物の体内に取り込まれ、将来に渡って生態系に大きな影響を与えるものと考えられています。このため海外では、プラスチックの使用を規制、廃止するなど対策を行う国が出始めています。

我が国では2000年に法律により、容器包装プラスチック類のリサイクルがスタートしています。これにより多くのプラスチックごみがリサイクルされるとともに、メーカーも企業責任で製品の軽量化やコンパクト化に取り組んでいることから、プラスチックを減らす方向に進んでいます。

また、国では近年の国際的なプラスチック問題などから、来年4月からレジ袋の有料化の法案を提出する動きがあるとともに、本市からも容器以外のプラスチックを含む全てのプラスチックのリサイクル制度を国に要望しています。すでに事業者も、レジ袋をプラスチックから紙袋やバイオマスレジ袋に、容器類は紙製容器に、ストローを紙製に転換することを検討しています。このようなことから、徐々に使い捨てプラスチックごみの発生抑制へ向かうものと考えています。

本市においても、2007年度から容器包装プラスチックと、その他製品のプラスチックを含めた全プラスチックごみを分別収集し、資源化をしています。また、搬入量(はんにゅうりょう)は、毎年約3%ずつ減量している状態が続いています。

ご提案の市内の小中学校で要らなくなったプラスチック製品を持ち寄り、欲しい人に使ってもらう方法は、ごみを減らすという目的では有効で、プラスチックに限らず、どんどん実施して欲しいと思います。また、この活動は、環境問題に関心を持っていただける良い機会なので、ごみを減らすことについて、クラスなどで議論してほしいと思います。

地域の公園などにプラスチックごみを回収するボックスを設置したり、学校などで集めて収集することについては、現在の市内のごみステーションに出す方がプラスチックごみを確実に収集でき、環境に影響が少なく、資源化もしやすく、新たな収集コストがかからないと思います。

本市としても、学校からのクリーンセンターの施設見学時やごみゼロ推進員研修会、市内一斉(いっせい)清掃や不法投棄未然防止活動の際など、あらゆる機会を捉(と)らえて、市民一人ひとりがプラスチックごみ問題に関心を持っていただくとともに、プラスチックの利用を減らし、また、ごみとして確実に排出し、リサイクルするなど、適正に処理するよう、啓発(けいはつ)に努めてまいります。



**その後の対応状況：**

プラスチックごみの発生を抑えるため、市では買い物の時にマイバックを持ってきてもらうことでレジ袋を減らすように市民の皆さんへ呼びかけています。今年度は、啓発(けいはつ)用のバックを作って、環境のイベントに参加される人へ配布しました。また、2019年6月に阪神7市1町ごみ減量推進(げんりょうすいしん)連絡会を立ち上げ、他の市・町と協力して、マイバックを持って買い物をしてもらえるような合同キャンペーンを行うための話し合いもしています。

担当部課：都市安全部（公園河川課、道路管理課）、環境部（生活環境課）

議員名	橋詰 菜月	テーマ	環境問題をなくすために
-----	-------	-----	-------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

私は、道路や公園にゴミ箱を公園に1個、道には1km間隔に設置することを提案します。なぜこの提案をするかということ、日本は他の国に比べてゴミ箱の数が少ないからです。ヨーロッパ、カナダ、アメリカでは、とてもゴミ箱が多いです。それに対して、日本ではゴミ箱がかなり少ないです。それによって問題もでてきています。道にタバコのすいがらが落ちていたり、ガムが落ちていたり、川にもゴミが流れていたり。公園にも沢山のゴミが落ちています。つまりポイ捨てが多いのです。ポイ捨てはゴミの不適正な処理方法の1つで対象物が小さい場合の俗称(ぞくしょう)です。日本では軽犯罪法(けいはんざいほう)に接触する違法行為でもあります。外でゴミがでたとき、ゴミ箱を探しに行くには時間がかかるし、家にもって帰る気にはなりません。なのでポイ捨てされると思います。ポイ捨てと軽い言葉で表現される傾向がありますが、火災、漂流(ひょうりゅう)、野生動物の殺傷(さっしょう)など社会問題の要因ともなっています。タバコのすいがらのような小さなものでも、海のゴミのうち約1/4がタバコのすいがらであったように海洋汚染の原因にもなっています。ゴミ箱が近くにないから、ゴミが道に捨てられます。ゴミが道に捨てられていると、環境も悪くなるし、誰も良い思いはしません。ゴミ箱が多くなればポイ捨ても減ると思います。宝塚が美しい市であるために、ゴミ箱を公園や道路など身近な場所にもっと設置するように提案します。

**答弁：**

ぽい捨てを無くすためにゴミ箱を公園に1個、道路には1km間隔に設置することについてですが、本市でも以前、橋詰議員と同じように考え、市内のバス停などの公共施設、公園にゴミ箱を設置していました。しかし、街のゴミ箱に家のごみを捨てに来るといったこと、ゴミ箱からゴミがあふれるなど、ゴミ箱がゴミを呼び込むといったことがあり、ゴミ箱を置いている地域の方から撤去(てっきょ)の要請(ようせい)があり、ゴミ箱を撤去していくようになりました。現在では、全てのごみ箱を撤去しています。

また、道路にゴミ箱を1km間隔に設置することについてですが、道路上に恒久的(こうきゅうてき)にゴミ箱を設置すると、道路通行上の安全確保という点で課題があるため、本市としては、道路上にゴミ箱を設置していません。

ただ、議員ご指摘のとおり、吸(す)い殻(がら)やプラスチックなどのごみのぽい捨てが、火災の原因や、海洋汚染の原因となり、先日ニュースになったタイのジュゴンの赤ちゃんのように、プラスチックごみにより命を失うといった悲しいことが起こっています。

本市としては、現在では街中(まちなか)に設置されたゴミ箱にごみを捨てるのではなく、自分で出したごみを処理するのは自分の責任であり、家に持ち帰り、缶やペットボトル、プラスチックなど適切に分別し、リサイクルするとともに、ごみを減らすことが、野生生物や地球環境を守るために必要であると考えています。

本市は、これからもごみを持ち帰り、適正に処理してもらえるよう重ねて啓発(けいはつ)はつしていき、宝塚市がきれいで美しい街であり続けるよう努力していきたいと考えています。

**その後の対応状況：**

答弁のとおりです。

都市安全部（公園河川課、道路管理課）

「ごみは自宅へ持ち帰って処理しましょう」というポスターを作って宝塚市内を走るバスの中に貼ったり、ポスターと同じ内容でバスの車内放送をして啓発(けいはつ)しました。

環境部（生活環境課）

担当部課：教育委員会（教育企画課、施設課）

議員名	山寺 陽	テーマ	ウォータークーラーの設置について
-----	------	-----	------------------

質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

私たちの学校で毎年行われる生徒総会では必ず「学校にウォータークーラーを設置してほしい。」という意見が出ます。ですが、衛生面や費用面の問題で、宝塚市内のどの中学校にも設置されていないからと、これまで一度もその意見が通ったことはありません。近隣(きんりん)の伊丹市、神戸市、川西市、芦屋市では、設置している学校があるそうです。また、大阪の寝屋川(ねやがわ)市では、今年度市内全ての小中学校に設置したと聞きました。ここ数年猛暑(もうしょ)が続いており、特に体育大会の時期などは多めに水分を持ってきていてもなくなってしまう時があります。そんな時、学校にウォータークーラーがあれば、水分補給に困ることがなく、熱中症の予防が期待できると思います。しかし、「直結水道の水をがぶ飲みするのは大丈夫なのだろうか？」という不安もあります。今までは校内でこの疑問を解決してきましたが、今回を機に市に質問してみようと思いました。ウォータークーラーを設置するには、たくさんの課題や問題点があると思います。ですが、私たちの学校では、設置を望む声が数多く上がっています。ぜひ一度前向きに検討して頂けたら嬉しいです。

**答弁：**

ウォータークーラーの設置につきましては、これまで子ども議会をはじめ、多くの要望をもらっていますが、ウォータークーラーの設置には、多額の予算が必要となるため、各学校に「直結水道」を設置しました。

この直結水道の蛇口の水には浄水場で水質管理された水が直接送られていて、その蛇口の周辺に「直結給水」と表示しています。

持ってきた水筒の水やお茶が足りなくなったときには安心して水飲み場の水を飲んでください。

皆さんが水飲み場をあまり利用していないとのことですので、この蛇口の水は安心して飲んでもらえる安全な水であることを知ってもらえるよう工夫をしていきます。

また、すでに設置している川西市や西宮市などでは、PTAと連携して、ウォータークーラーを設置している事例もあることから、本市においても、これらを参考に、どのような工夫、方法が取れるのか、しっかり検討していきます。

まずは、熱中症予防には水分補給が大切ですので、家から持ってきた水筒のお茶や水と、設置した水飲み場の蛇口からの水も飲んで、しっかり水分補給に心がけてください。

**その後の対応状況：**

（施設課）直結水道については、今後、生徒の皆さんに広く知らせるように努めます。

（教育企画課）他市ではウォータークーラーをPTAなどの寄附(きふ)によって設置しているところがありますが、給水排水の関係で設置場所の確保が困難な場合や、工事費用・メンテナンス費用などが高額な場合は、寄附の申出があったとしても設置できない場合があります。設置について今後も検討を続けます。

担当部課：教育委員会（学校教育課）

議員名	篠原 あおい	テーマ	電車内での他者への思いやりについて
-----	--------	-----	-------------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

私は電車内での「他者への思いやり向上」について考えています。理由は、お年寄りに席を譲（ゆず）っている人を見て、このような人が増えてほしいと思ったからです。譲った方も、譲られた方も、さらには周りでその優しさを見ていた人も温かい気持ちになります。2つ目は駆（か）け込み乗車をして扉に挟まりそうになっている人を見たからです。危険なのはもちろん、発車時間が遅れるなど、人に迷惑をかけるかもしれません。席を譲ることはすべき行為ですがルールではありません。駆け込み乗車をしないということもマナーですがルールではありません。「ルールでなければ実行しない」私はこれが電車に関わる問題だと考えています。そこで今の状況を良くする方法として小中学生のポスターの作成を提案します。駅や近隣（きんりん）の学校、施設にマナー向上を呼びかけるポスターを掲示します。このポスターは心を温かくすることで、周りの人に優しくなることを薦（すす）めるものなので、心が和むようなものかいいと思います。また、ポスターコンクールなどを開催すれば、ポスターを描いた子どもたちもマナーに気をつけるようになると思います。可能ならば電車内がそのポスター一色にできればいいと思います。このようなことが実現できるように、宝塚市の小中学校でポスターの作成を呼びかけ、そのポスターをなるべく多くの人の目にふれるようにすることを提案します。

**答弁：**

電車内での他者への思いやりにつきましても、電車内でお年寄りや妊婦の方に席を譲（ゆず）る光景は心が温まります。ご質問された内容のような、ルールではないけれど自然と人を大切にできるような行動がとれる社会になればと思います。

教育委員会としましても、そのような児童生徒の育成をめざし、学校と連携した取組をしています。小中学校では、普段の学校生活での指導はもちろんですが、校外学習に行く事前学習として、乗車マナーについてなど子どもたちに注意を呼びかけています。

また、道徳の学習でも、「思いやり」に関する学習を、教材などを使って行って、相手に温かい心で接するなど、自らができることを話し合いながら考えています。

ポスターの作成につきましては、乗車マナーに絞（しぼ）った取組は現在行っていませんが、宝塚市人権・同和教育協議会が募集している人権ポスターには、友達や人を思いやる内容の作品が毎年提出されています。入選作品については、市や学校が主催する人権に関する行事やイベント等で展示されたり、人権作品集に掲載（けいさい）されたりするなど、市民への啓発（けいはつ）に活用されています。

今後は鉄道会社が募集しているポスター企画などを各校に紹介し、また、誰もが安心して気持ちよく電車に乗ることができるよう、乗車マナー向上について鉄道会社と一緒に考えられるような取組を、鉄道会社等に働きかけていきます。

**その後の対応状況：**

2019年9月に篠原さん、学校担任教諭と阪急電鉄(株)本社へ行き、運輸部担当の方と協議をしました。小中学生が作成したポスターを各駅のコミュニティボードで活用できるかどうかや阪急電鉄(株)が募集している標語ポスター用の標語を学校から提出していく方向で検討します。

担当部課：教育委員会（施設課）

議員名	村松 俊哉	テーマ	全館空調の設備を提案します
-----	-------	-----	---------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

私達の学校では、教室内は、空調があり快適に過ごせています。  
しかし、玄関ホールや廊下は、夏はよく陽があたり30度以上になります。また冬は、窓からの寒気が伝わり10度台になります。そのため、教室の移動のとき、教室と廊下との温度差に体調をくずす心配があります。また、廊下で歩行器や電動車いすの練習をするのに、暑さや寒さをがまんしなければいけません。養護学校の児童生徒には、体温調節がうまくできずすぐに体温があがってしまう人や他の人よりも体温が低い人がいます。そのため、全館空調の設備をお願いします。  
質問したいことは、最近建てかえられたりこれから建てかえられたりする特別支援学校（肢体(したい)不自由)の空調はどのようになっていますか？  
宝塚市立養護学校が全館空調になる予定はありますか？  
宝塚市立養護学校の児童生徒の様子や空調の様子を知っていますか？

**答弁：**

養護学校の全館空調の設備につきましては、兵庫県内で、最近、建て替えられた特別支援学校としては、2018年度に尼崎市で新校舎が完成しており、また現在、西宮市と神戸市で、新しい校舎の建設が計画されています。これらの学校では、教室、廊下、体育館、屋内プールと、学校内の全てに空調が整備されますが、これは、体温調節が難しい児童生徒の皆さんのために整備されるものだと考えています。  
本市の養護学校では、廊下などは空調が整備されておらず、養護学校を訪れ、皆さんの学校生活の様子を見せていただいた際、教室と廊下との温度差を実感しました。保護者の方からも全館空調の必要性を強く訴えられる声が寄せられており、養護学校の児童生徒の皆さんにとって、空調が非常に重要な設備であることは、強く認識しています。  
現在、養護学校の玄関ホールや廊下にも空調を整備できるように、計画を進めているところであり、できるだけ早期に取り組んでいきたいと考えています。

**その後の対応状況：**

国の交付金(こうふきん)事業の採択(さいたく)を受け、2019年度3月補正予算において、養護学校廊下空調設備整備工事費を計上しており、2020年度中に整備工事を実施する予定です。

担当部課：子ども未来部（子ども家庭支援センター）

議員名	園田 彩夏	テーマ	児童館の利用権利について
-----	-------	-----	--------------

質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

皆さんは、宝塚の児童館が宝塚に通学、在住していないと利用出来ない事を知っていますか？今回、私が提案したい事は、児童館を利用したい市外の方も利用出来るようにしたいという事です。どうしてこの案を提案しようと思ったかという、私は現在伊丹在住なのですが、宝塚の高校に通っているためよく児童館を利用しています。ですが、私の小学校・中学校時代のほとんどの友人は伊丹の高校に通っているため、児童館の利用が出来ません。私が利用している児童館では子供達がやりたい事を実現するために職員さんがサポートし、子供達が企画(きかく)・運営が出来る夢企画という企画があります。私も実際に企画・運営をした事があり、その時は皆喜んでくれて嬉しかった事を覚えています。私の友人にはこんな企画・運営がしたい人が多くいます。そして、現在私が利用している児童館の利用者数は年々減少しています。今、市外の子供達も利用出来るようになれば、児童館の利用者数も増え、企画・運営や他にも色々な事をする事が出来る子供達も増えると思います。そして、児童館での経験は将来、多くの子供達の自信になると思います。皆さんは、多くの子供達に色々な経験や体験をしてほしいと思いませんか？

**答弁：**

本市の児童館は、市内に住所を有する児童及びその保護者、市内に住所を有する児童で構成(こうせい)する団体などを利用者の範囲として規定(きてい)しています。

以前、市外在住・在学の児童が含まれていても市内に住所を有する児童が半分以上の団体であれば、児童館の利用を認めたと、市外在住の利用者が増加し、結果として、市内在住の児童の利用に影響が生じることがありました。

そのため、市外在住の児童の利用については、市内の学校に通っている児童、生徒であれば利用を認めることにしました。

このような経緯(けい)のため、市外在住で、市外の学校に通う児童の児童館利用については、利用者の拡大につながる一方で、現在の児童館利用者が使いにくくなる恐れもあり、緩和(かんわ)に向けては、慎重(しんちょう)な対応が必要と考えます。

園田議員のご意見のとおり、児童館は、児童の健全育成のために、健全な遊びの場の提供や遊びの指導の他、イベントなどに企画の段階から参加し、立案(りつあん)、運営などに関わることができるといふ貴重な体験ができることです。

実際に企画したイベントがとて好評(こうひょう)で嬉しかった、友達も誘ってみんなで児童館を利用したい、という園田議員の感想は、大変うれしく思います。

本市としましては、園田議員のように、児童館で素晴らしい経験を多くの児童生徒の皆さんに積んで欲しいと考えておりますので、今後も、児童館についてたくさんの方に知って頂けるよう、より効果のあるPR方法を検討し、周知に努めていきます。

**その後の対応状況：**

児童館についての情報は、ホームページ、広報たからづかなどに掲載(けいさい)しています。また、各小学校及び一部中学校には児童館だよりを配布し、学校内でも掲示しています。実際に児童館を利用されている方がお友達などに児童館をどのように利用しているか、こんな楽しいこともあるよ、など伝えていただくことも、効果があると考えます。また、大型児童センターで行われている「ミニたからづか」は、小学生から高校生まで参加しているイベントです。参加した皆さんの「参加してよかった」「やりがいがあった」という生のお声を広めていただくことも効果があると考えています。

このような取り組みを通じ、中高生の皆さんが様々な体験を通じて、宝塚市への愛着が深まるよう楽しい児童館づくりに努めています。

担当部課：都市安全部（総合防災課、公園河川課）、教育委員会（学校教育課）

議員名	鶴川 遥奈	テーマ	武庫川の氾濫について
-----	-------	-----	------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

私は、武庫川の氾濫(はんらん)問題について提案します。2016年9月に、六歳の男の子が武庫川に転落し、亡くなったというニュースがありました。この事故を受けて、宝塚市民の安全を守る為の策を共有しようと考えました。この事故では、川の近くにはアナウンスをできる設備が無かったため、河川の周辺にいた人達が危険に気づくことができなかつたこと、川の側まで簡単にいけるような状態であることが問題であったと考えられます。今後このような事故を防ぐ為に、川の近くにアナウンス設備を設けること、川の水の増減に伴って危険を知らせる表示を設置すること、堤防(ていぼう)を高くすることが策として考えられます。アナウンス設備の設置を市民全体に伝え、危険を察知したときには誰でもすぐに使用できるようにすることが必要です。アナウンス設備に加え、表示設置や堤防を高くすることには高い費用がかかるので、税金を使って氾濫を防ぐ際には、市民の同意を得なければいけません。その為に、自治会の集まりなどで伝える必要があると考えます。その他にも、もしこのように万全を尽くしても事故が起きてしまった場合に備えて、救急車やパトカーがすぐに到着できるように道幅を広げたり、道路舗装(ほそう)をすることも大切だと思います。子供達には、雨の日には川には近づかないように学校で呼びかけたりすることも、事故を防ぐことにつながると考えます。

**答弁：**

武庫川の氾濫(はんらん)についてですが、ボール遊びをしていた男の子が武庫川に転落して、お亡くなりになられたことは、私も心を痛めました。二度とこのようなことがないように、ボール遊びができる公園をその近くで開設したところです。

さて、武庫川は兵庫県が管理している河川ですので、河川管理者である県宝塚土木事務所に鶴川議員のご提案をお伝えしました。

まず、県内では、人が水辺(みずべ)まで入ることのできる川で、大雨が降ったときに急激に川の水が増す恐れのあるところには、危険が迫っていることを知らせる黄色の回転灯が設置されています。

市内では天神川(てんじんがわ)の長尾町に1つあり、大雨洪水注意報、大雨洪水警報が発令されると同時に、回転灯が点滅して川へ近づかないように注意を促(つな)ぐ仕組みになっています。

一方、武庫川は急激に水位が上昇することがないため、このようなシステムは設置されていませんが、危険なときに川から堤防までの避難経路を案内する看板が設置されています。

最後に、堤防(ていぼう)を高くすることにつきましては、現在、宝塚市域では、その計画はないとのことでした。

併せて本市としましては、災害時に河川へ緊急車両が向かえるよう市道の整備を行っています。

また、大雨や台風のとくに、河川が氾濫する恐れがある場合、現在市内45箇所に整備している、すみれ防災スピーカーを通じて市役所から市民の皆様に、危険周知や避難を促し、安全の確保を図ります。

また、すみれ防災スピーカーは、自治会(じちかい)など地域の方が放送することも可能です。

この他にも、台風が去って雨が止んでも増水した川のそばには、くれぐれも近づかないよう、本市からは安心メールやツイッターを通じて市民に注意喚起(かんき)しています。

武庫川の氾濫につきまして、学校で呼びかけることが事故を防ぐことにつながるという考えは、正にそのとおりであると思いますので、学校では、日ごろから川で遊ばないように子どもたちに指導しています。また、長い休みの前や梅雨、台風が来る季節には大雨によって川が増水する恐れがあることから、川に近づかないように指導しています。普段と変わらない様子の川でも、上流の状況で急に増水する場合もあることを含めて川の危険性について子どもたちに注意を呼びかけ、水難事故の未然防止に努めています。

今後も子どもたちの安全・安心を第一に考えた取組を進めていきます。

**その後の対応状況：**

(総合防災課) 2019年の台風10号や17号において「増水した河川や水路、宅地(たくち)には近づかない」よう安心メールやツイッター等を通じて注意喚起(かんき)を行いました。

(公園河川課) 答弁のとおりです。

都市安全部 (総合防災課、公園河川課)

答弁のとおりです。

学校教育部 (学校教育課)